

## 背景

近年、新型インフルエンザやノロウイルスなどの感染症の集団発生が報告されるようになり、感染症対策の重要性が再認識されている。薬局は地域住民の健康維持のため、医薬品情報のみならず、感染症や予防に関する情報や啓発についても発信する場でないといけない。

田辺薬局(株)では地域住民の健康維持を目的として、塩素系の消毒剤を提供してきた。衛生面において塩素系の消毒剤が定性・定量的に有用であることは明らかであるが、日常生活スタイルの中での有用性を示す報告は少ない。



「インフルエンザ予防」という点に着目し塩素系消毒剤の有用性を検証した。

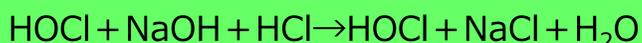
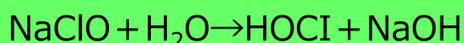
## 方法

### アクアラボ® (次亜塩素酸水)の調製

製造機器

FH600E2 (株式会社 テクノマックス社)

塩素濃度は100または200ppmとし、  
pHを弱酸性に調製



- 対象者

茨城県神栖市内の田辺薬局利用患者 4 8 7 6 名  
(H.22.11～H23.5) .

- 調査方法

前向きコホート.

- 調査内容

薬歴を基に(H.22.12～H23.3)、アクアラボ®使用者と未使用者のインフルエンザの罹患状況を調査し、罹患率を比較。

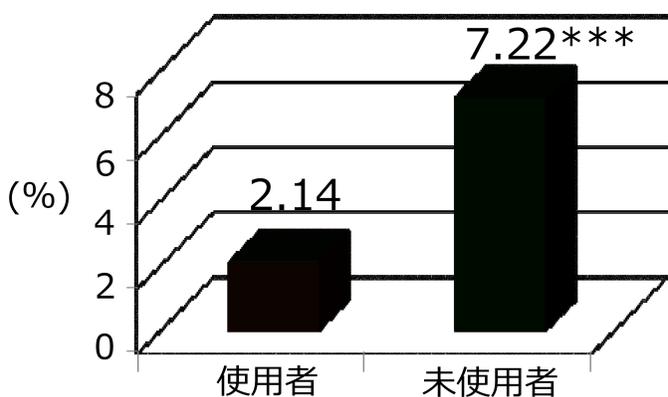
(罹患はタミフル®、リレンザ®、イナビル®が処方されたことで判別した。また、バイアスを考慮し、アクアラボ®の使用者および未使用者50名ずつ無作為に抽出し、インフルエンザワクチンの接種状況を調査した。)

## 結果

### インフルエンザ罹患率の比較

X<sup>2</sup>検定 (使用・未使用間)

\*\*\* p<0.001



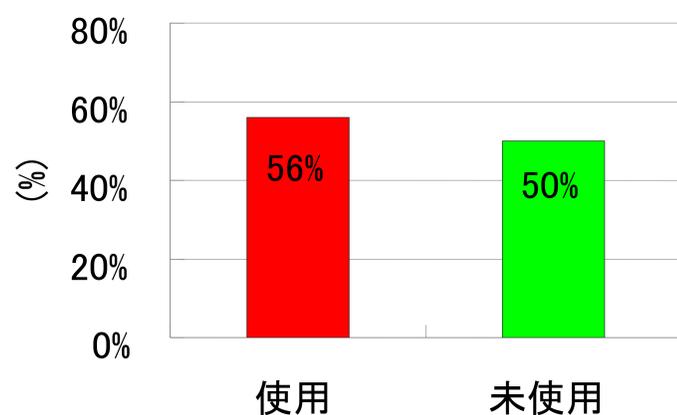
外来患者4876名のうち、アクアラボ®使用者は374名であった。インフルエンザ罹患率は、アクアラボ®未使用者が7.22%に対し、使用者は2.14%となり、有意差が認められた(p<0.001 X<sup>2</sup>乗検定)。

### アクアラボ®使用者の罹患状況

| 年齢層    | 使用者数 | 罹患者数 |
|--------|------|------|
| 0～15歳  | 90   | 8    |
| 16～30歳 | 20   | 0    |
| 31～50歳 | 60   | 0    |
| 51～64歳 | 89   | 0    |
| 65歳～   | 113  | 0    |

アクアラボ®使用者の罹患者8名はいずれも0歳～15歳未満であった。

### インフルエンザワクチン接種率の比較



インフルエンザワクチン接種率はアクアラボ®未使用者が50%に対し、使用者は56%であった。

## 考察

今回の調査では、アクアラボ®使用者は未使用者に比べて罹患率が低い結果となったが、その一方で、インフルエンザワクチン接種率は未使用者より使用者の方が高い傾向にあることも判った。これは、使用者の年齢層が、0～15歳未満および65歳以上に数が多いことからもうかがえる。しかしながら、16歳以上の層に罹患者がいなかったことより、アクアラボ®がインフルエンザ予防に一定の効果をもたらしていることが示唆された。また、その他の要因などバイアスを排除しきれていないため、より具体的な因果関係を示すには更に多くの詳細なデータ収集が必要と考える。

インフルエンザ感染予防にはさまざまな対策があるが、今回の我々の取り組みは、日常生活スタイルの中で塩素系消毒剤がインフルエンザ感染予防に有用であることを示すと共に、薬局の立場から予防という観点で深く関わりを持ち、検証していくことが重要であると考え。